

## 2020年 年頭挨拶

【緒言】2020年を迎えるにあたり、これまでご支援ご助力をいただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。今年も皮膚科領域のCreative Professional育成のために尽力してまいります所存です。

▶昨年、ミラノで開催されたWorld Congress of Dermatologyに参加した時のことだ。Max Planck Instituteの科学者、Thomas Boller教授による”The beginning and the end of the universe”という講演を拝聴する好機を得た。宇宙とは何かを考える際、生命とは何かという疑問とも対峙してしまう。今、私たちの住む世界に永遠はない。そのためミラノのduomoのステンドグラスには”never ending”という人類の願いが込められているのだとか。▶Boller教授によれば太陽は徐々に大きくなっており、40億年後には地球の気温上昇のため人は住めなくなるそうだ。42億光年後には私たちの銀河系がアンドロメダ銀河系と衝突を起こすとの予測も示した。42億光年先の地球の状況は想像が難しく、人ごとのようにも感じてしまう。しかし、悠長にはしてはられないようだ。▶国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は地球のターニングポイントが目と鼻の先に迫っているとの見解を示した。この先10年で地球の温度が1.5°C上昇し、地球環境に深刻な打撃を与える可能性が高いという。地球環境問題はもはや人ごとではすまされない。▶2020年1月、長崎大学のコンセプトが河野 茂学長より発信された。“For Planetary Health, Nagasaki University” [プラネタリーヘルス (地球の健康) のために、長崎大学]。地球環境の改善にむけて大学人が専門知識を結集し学際的になんらかのアクションを起こすことが求められている中で、皮膚科学も大きく貢献できるものと考えます。▶皮膚は感覚器である。温度、気圧、光、嗅覚、湿度を感受し、神経に伝達する。環境に順応する上で皮膚を利用しない手はない。皮膚への何らかの介入が脳に錯覚を生じさせ、あたかも気候に順応できているように感じさせる。その結果、空調機等エネルギー消費に依存しない状況を作り上げることが可能ではないだろうか。▶皮膚は血管拡張や発汗により体温調節に関わる。私たちが得意とする発汗機能に関わる研究がヒトの環境適用に役立つだろう。確立しつつある新しい発汗制御方法がその先取的アプローチになることを期待している。▶「皮膚は地球を救う」。これは私の敬愛する、玉井克人先生 (大阪大学大学院医学系研究科再生誘導医学寄付講座教授) の言葉である。玉

井先生の思いの重みが増してきた。▶快適な空間や利便性を求めるヒトの追求が仮想空間に向かう時代だ。皮膚の機能を応用したバーチャルリアリティが地球を救うソリューションになりうるかもしれない。テーマは発想次第で無限大に広がる領域だ。教室内、学生、職員・教員の皆さんの思いつきやアイデアがあれば是非お聞かせ願いたい。